

東京ディズニーランドには行けませんでした。・・・㊦最終回

鉄腕アトム

空を越えて ラララ 星のかなた
 ゆくぞ アトム ジェットのかぎり
 こころやさし ラララ 科学の子
 10万馬力だ 鉄腕アトム

耳をすませ ラララ 目をみはれ
 ゆくぞ アトム 油断をするな
 こころ正し ラララ 科学の子
 7つの威力だ 鉄腕アトム

街角に ラララ 海の底に
 今日も アトム 人間守って
 こころはずむ ラララ 科学の子
 みんなの友達 鉄腕アトム

素敵な心のスケッチを 一杯描けましたか？！

- ◆ディズニーランドには行けなかったけど、富士急ランドを全力で楽しみ、アウトドアスポーツで自然とどっぷりと触れ合い、なかなか経験できないペンション宿泊もあり、充実した3日間だったと思います。
- ◆スマホの使い方で、少し注意を受けいてましたが、その他は完璧！校長先生も合格点を与えていました。(僕が、ごちゃごちゃ記すより「殿馬場中だより11月号」を参照)
- ◆さあ、来週の月曜日は、11月校内実力テスト！。分かっていると思いますが、9月の実力と共に私学受験の大切な参考資料となる。準備は万全だろうか？この土曜日曜と怠けずにしっかりと取り組みよ。学習した箇所がドンピシャの時もある！！

(以下、毎日新聞 2003・4・8朝刊「記者の目」からの要約)

- この日は、手塚治虫さん原作の人気漫画「鉄腕アトム」の中で、アトムが誕生した日でもある。連載が始まったのが50年前。その頃には、夢に過ぎなかった「アトムの時代」に私たちは、いよいよ突入する。
- 手塚さんは、単に科学技術が発達した明るい未来社会を描いたのではなく、むしろ科学を使う『人間の心』を問い続けた。原作は雑誌「少年」に1952年4月から68年3月まで連載された。この原作は、さっそうと登場する「正義の味方」というTVアニメ漫画のアトムのイメージとは違う。読むのが苦痛になるほど、人間の本質を突いた重厚な物語である。
- アトムは、人類の味方だ。人類を滅ぼそうとする悪と戦うが、その悪もまた人間が生み出したものである。人間の心に住み着く悪を描き、そのような人間が科学を担っているのだ。
「アトムは、完全ではないぜ。なぜなら悪い心をもたねえからな」・・・。
- 鉄腕アトムは単純な科学礼賛、勧善懲悪の物語ではなく、人間そのものを描いた作品だ。この世から「悪」がなくなることはなく、時として悪が正義に勝つこともあるのだ。きれい事ではなく、現実を見つめなおし、正しいことは何かを考えさせられる。欲望に弱く、やすきに流されがちな人間の存在を認めつつ、それでも「大変だけど、ちょっと立ち止まって何をすべきか考えようよ」と語りかけているのではないか。
- その後、科学は漫画を追い越す勢いで進歩した。アトムに登場した「無電」「ラジオ連絡機」は、今や携帯電話として実用化され、漫画をはるかにしのぐ。夢を追い続けた科学者たちの成果だ。しかし一方で核兵器(イラク戦争)クローン人間など悪夢のような現実も科学者たちによってもたらされた。
- 世の中「善か悪か」「0か1か」のデジタル式(二元論的)に割り切れるものではなく、悩み、迷う場面がたくさんある。そこできちんと、しっかりと悩み、後退せずに、謙虚に、前進を続けるしかない。「科学の子」アトムは、そう語りかけているような気がする。

- ◆君たちもまた、アトムの時代を生きる。そして進路選択、受験、将来への夢や希望、反対に不安やコンプレックス・・・。欲望に弱く、易きに流されやすい人間だから、しっかりと悩み、謙虚に、後退せずに前進して伸びてゆこう！だからこそディズニーは、大人や子供に夢(生きる力)を与えた！

君たちもまた、修学旅行の思い出を盾と矛に卒業まで戦え！

PS

- ◆アトムが、漫画の中で泣いたり悩んだりするシーンは、・人間の心ない行動や発言に出会ったとき。・人間によってロボットが差別されたとき。・人間によってロボットどうしが戦われるとき。そして最終回、アトムは人類のために自らの命を犠牲にして太陽に飛んでいく。